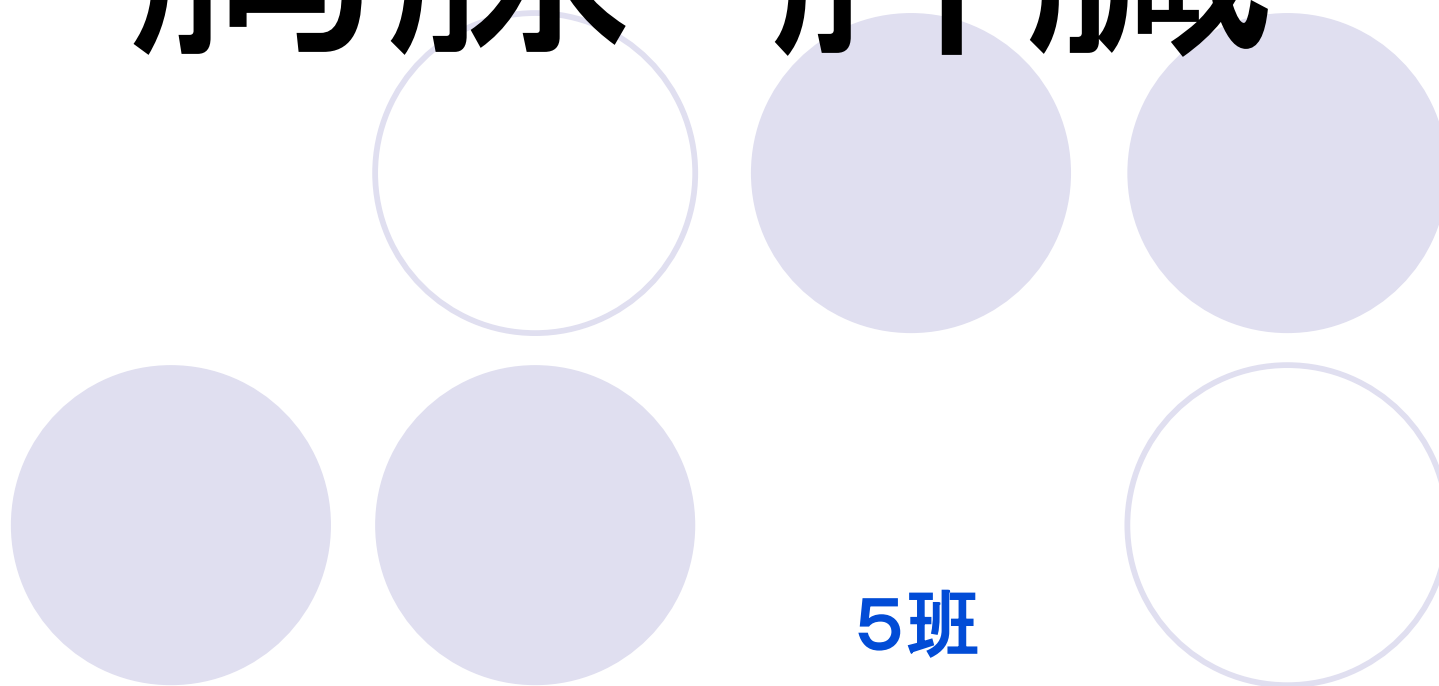


# 胸腺・脾臓



# 1.胸腺

## 血管支配

### ・解剖学的位置

心臓の前、上方に位置し二葉からなっており、胸骨の後ろに、心臓に乗るように存在する一次リンパ性器官

形 H型

重さ 誕生時の重さ 10gくらい

思春期には 30gに成長

40歳代には 15gほど

### ・血管支配

内胸動脈 上甲状腺動脈 下甲状腺動脈 輸出リンパ管 後毛細血管細静脈

迷走神経支配



胸腺—左右の胸小葉—表層の暗調な皮質 上皮性細胞 胸腺素と胸腺生成素を分泌

交錯突細胞—MHC抗原；胸腺細胞の分化誘導  
相隣細胞間—デスモゾーム  
胸腺細胞：リンパ球のこと 85-90%.

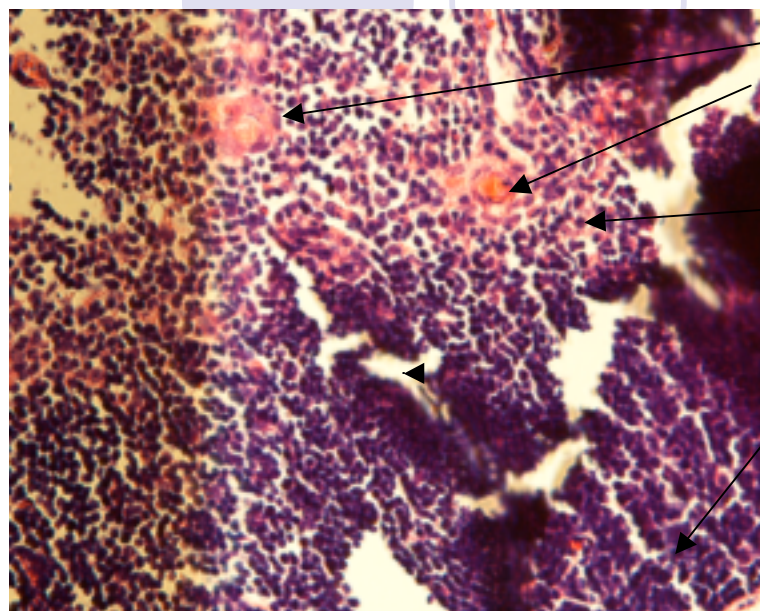
—深層の明調な髄質 上皮性細胞 多い Thymosinを分泌  
胸腺細胞：少ない.  
ハッサル小体；胸腺上皮細胞が同心円状配列

—被膜—胸腺を支配する血管、神経、輸出リンパ管

## 生理的機能

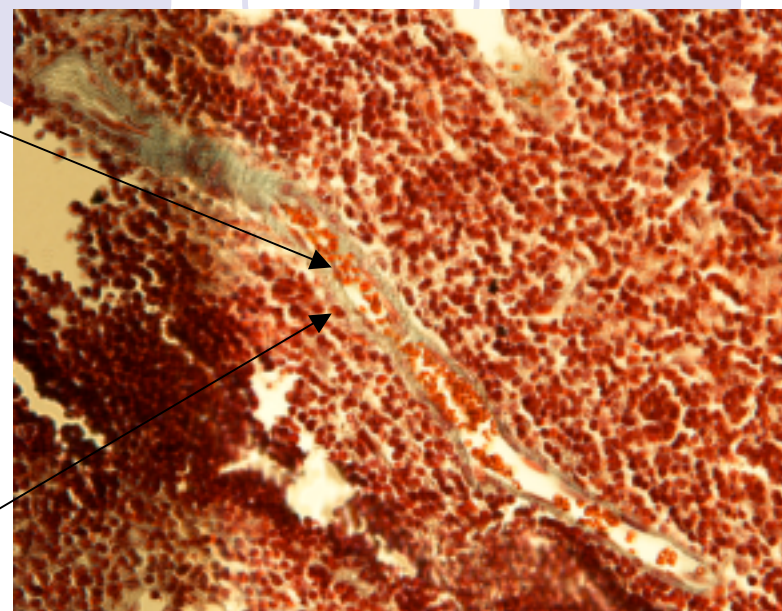
- ①Tリンパ球の分化、成熟
- ②免疫系の調節

## HE染色

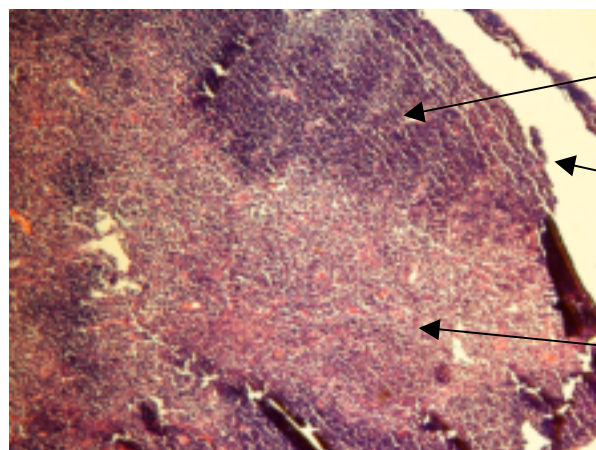


×400 HE

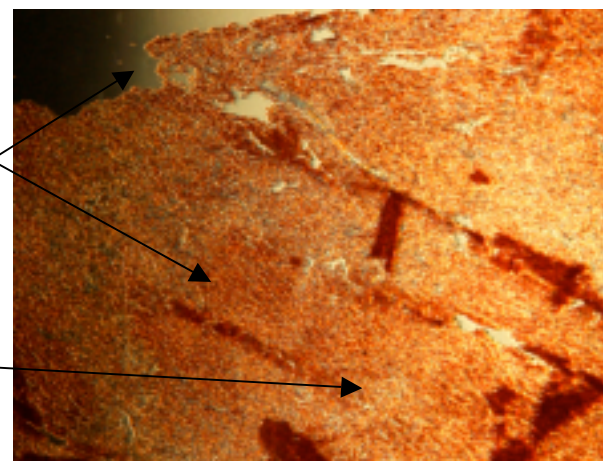
## MT染色



×400 MT



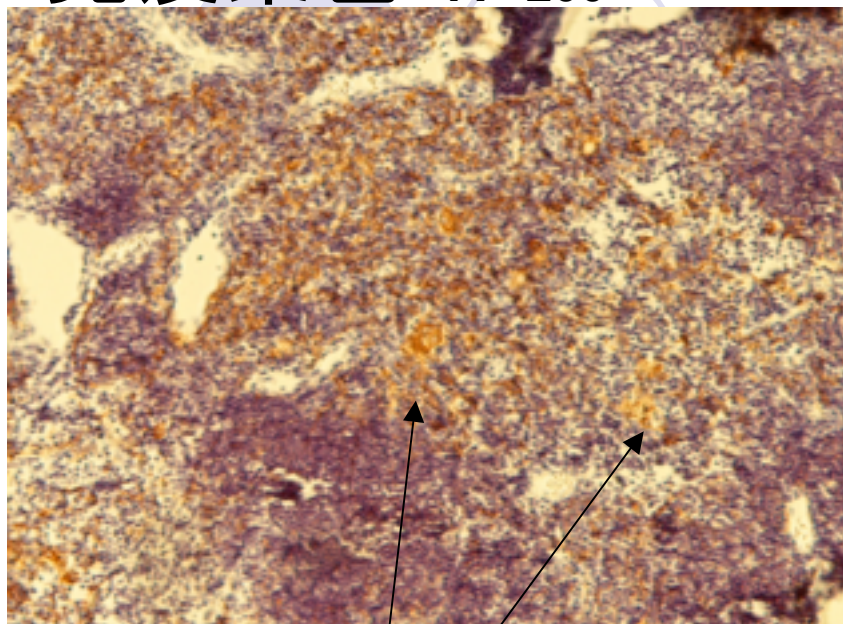
×100 HE



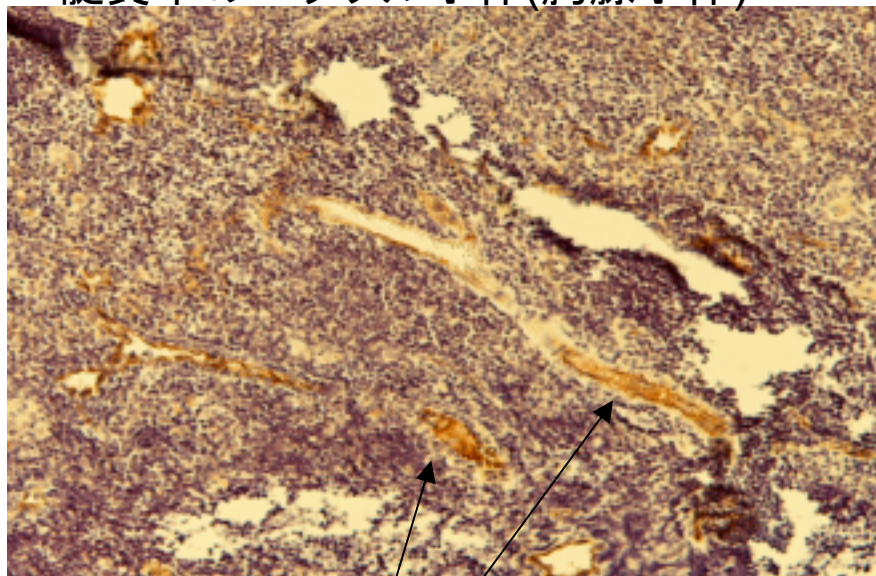
×100 MT

# 免疫染色

A ×200

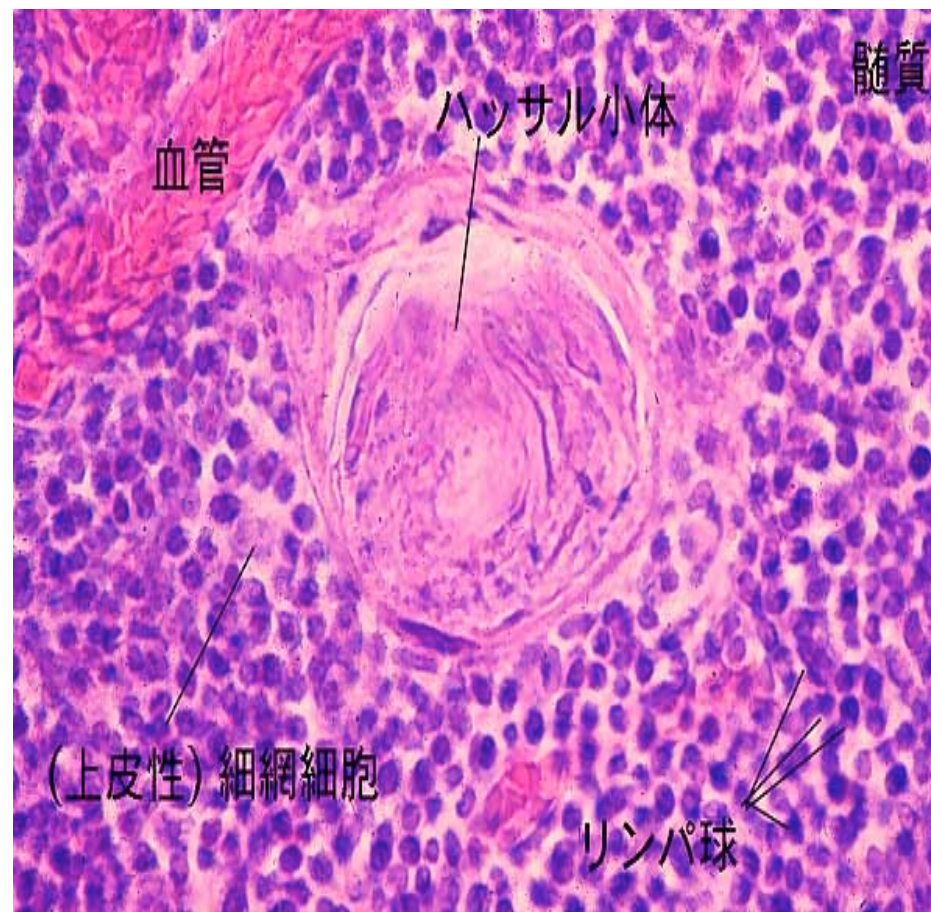


髄質中のハッサル小体(胸腺小体)

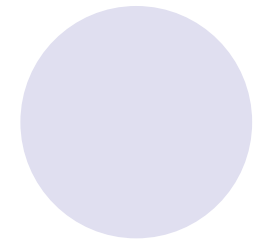
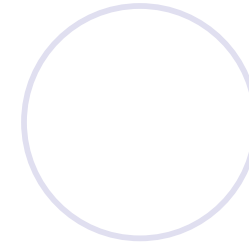
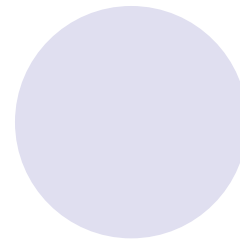
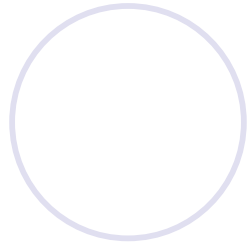


血管内皮細胞 B-2×200

HE染色



## 2. 脾臓



### ・解剖学的位置

#### ・大きさ

長さ12cm、幅7.5cm、厚さ5cmほどの楕円形

#### ・重さ

100～200g

（含まれる血液の量によって大きく変わる。）

### ・血管支配

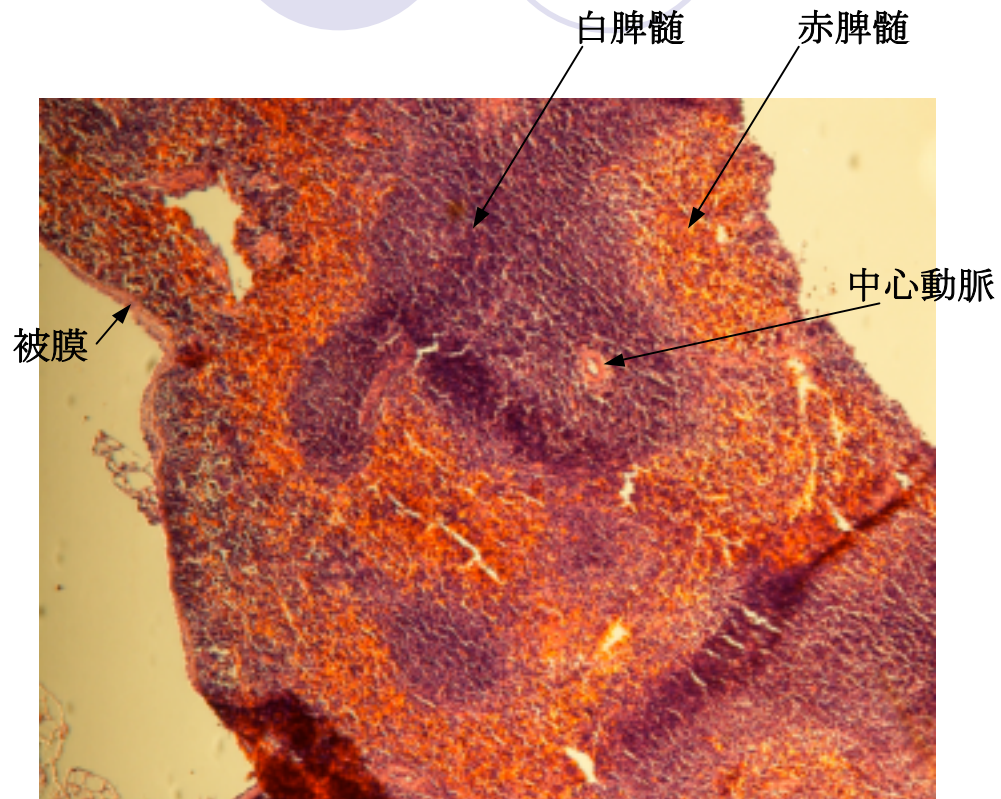
脾門から脾動脈、脾静脈、リンパ管が出入りしている。



## ・生理的機能

- ①古くなった血液細胞を破壊・貪食により除去
- ②崩壊した赤血球由来の鉄を貯蔵
- ③Bリンパ球の分化・成熟
- ④胎生期における造血
- ⑤血小板の貯蔵(全量の3分の1)

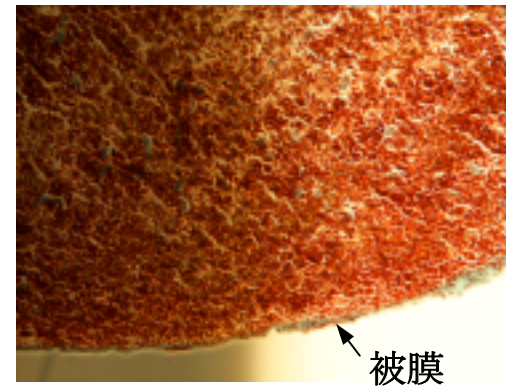
## ・HE染色



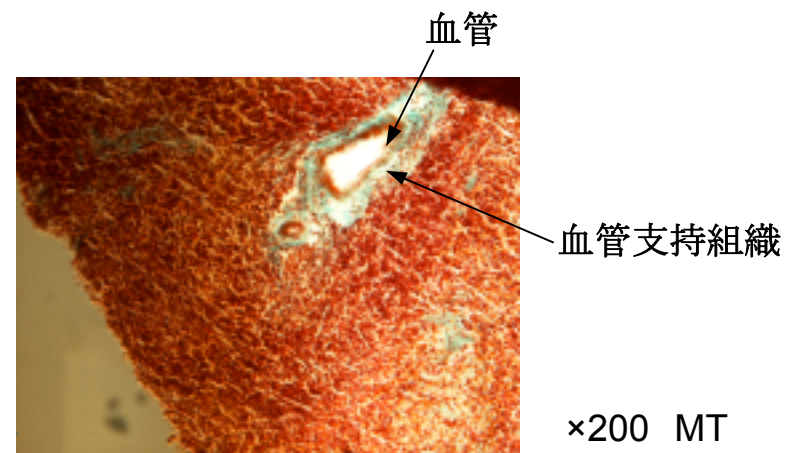
×100 HE

## ・MT染色

脾臓を覆う被膜と、血管を支持する結合組織が染まっていた。



×200 MT

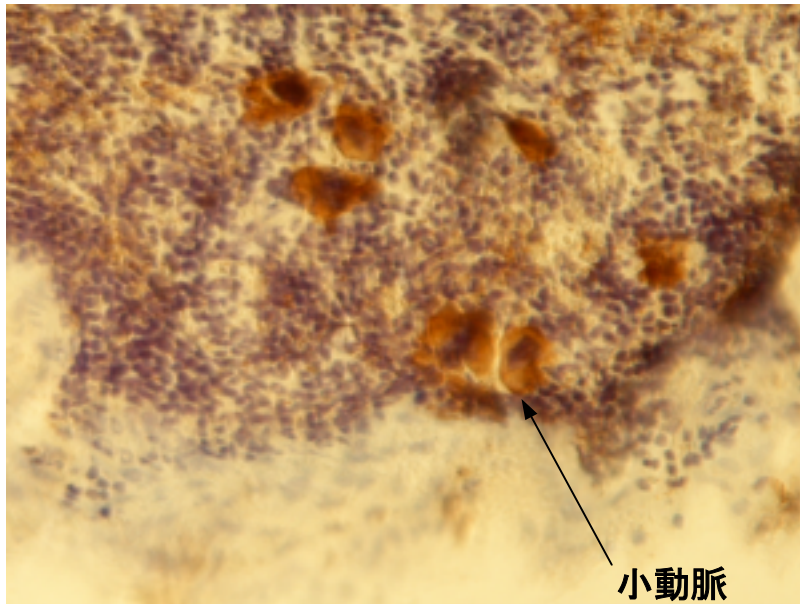


×200 MT

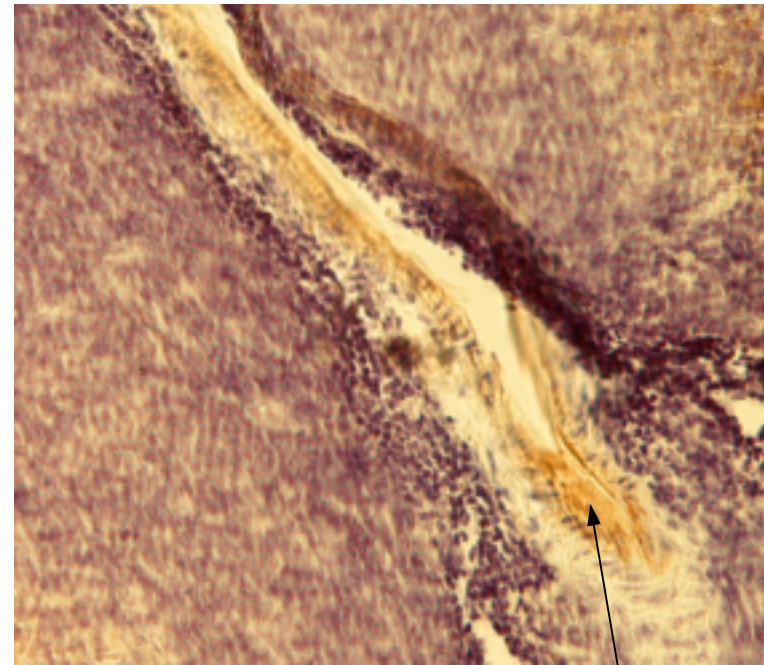
## ・免疫染色

抗体A 染まらなかった。

抗体B-2 白脾髄中の小動脈と、血管内皮細胞が染まっていた。



×400 抗体B-2



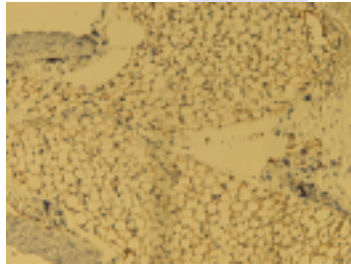
×400 抗体B-2

血管内皮細胞

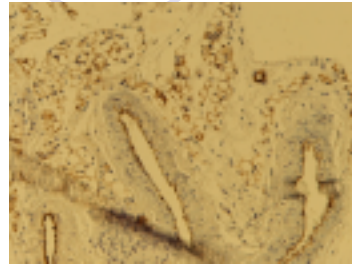
## ・免疫染色の非特異反応について

胸腺

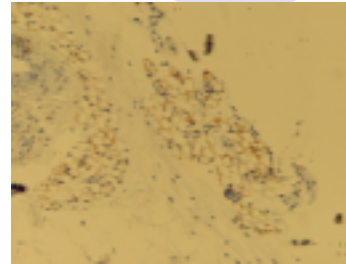
抗体A



抗体B-2

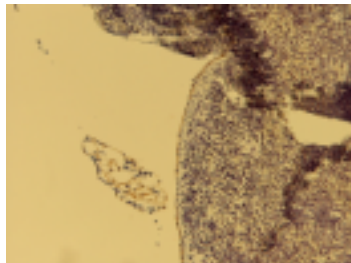


NC

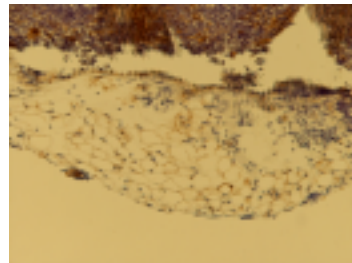


脾臓

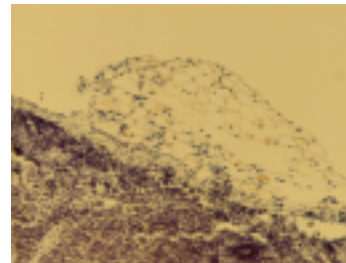
抗体A



抗体B-2



NC



※胸腺・脾臓の両方の標本について、脂肪組織が抗体AおよびB-2の染色で染まっていたが、ネガティブコントロールでも染まっていることを確認できたため、これは非特異的な反応だと考えられる。

## ・抗体の種類

抗体Aについて

胸腺で上皮細胞（胸腺小体）が染まったので、keratinだと考えられる。

抗体B-2について

胸腺・脾臓でともに血管が染まったので、factor8だと考えられる。